

みんなの大切な命のために。

救急医療の新しい約束 「救急医療の東京ルール」をつくりました。

救急医療機関や救急車の不足、夜間対応病院の混雑など、救急医療の現場には、さまざまな問題が生じています。たとえば、東京で救急搬送された年間約600,000件のうち、94%はすみやかに運ばれています。しかし、全体の6%にあたる約40,000件が、搬送先の病院がスムーズに決まらず、搬送困難になっています。あなたの家族、そしてあなた自身の「もしも」のときに、救急医療の現場が混雑していたら……

この状況を改善し、より大きな安心を実現するために決められたのが、このパンフレットで紹介する、「救急医療の東京ルール」です。

みんなの大切な命を守るために
救急医療の3つの約束、必ず覚えてください。



東京ルール I

救急患者の迅速な受け入れ

救急患者が迅速に医療を受けられるよう、地域の救急医療機関がお互いに協力・連携して救急患者を受け入れます。



東京ルール II

「トリアージ」の実施

緊急性の高い患者の生命を守るため、救急医療の要否や診察の順番を判断する「トリアージ」を、救急のさまざまな場面で実施します。

東京ルール III

都民の理解と参画

都民の大切な「社会資源」である救急医療を守るために、都民一人ひとりが適切な利用を心がけます。



みんなを守る救急医療。

深夜、急に発病!

緊急と思ったら迷わず119番へ!

緊急と思ったら迷わず119番にかけ、救急車を呼んでください。



しかし、急な発病やケガの際で、救急車を呼ぶか、病院に行った方がいいか迷ったときは、「東京消防庁救急相談センター」にお電話を。電話番号は「#7119」です。



#7119に相談した結果…

- 緊急性のない場合は、「明日には病院に行ってください」等と案内します。
- また、必要により応急手当の方法をアドバイスします。
- 緊急の場合は、救急相談センターから救急車を呼びます。

※「東京消防庁救急相談センター」の詳細は、このページの裏側をご参照ください。

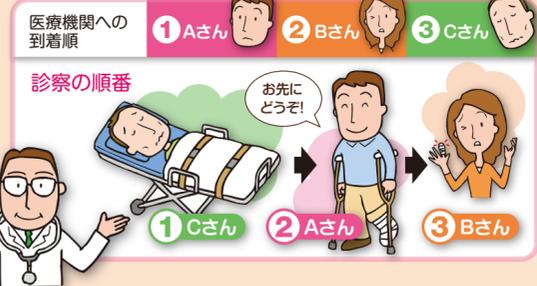
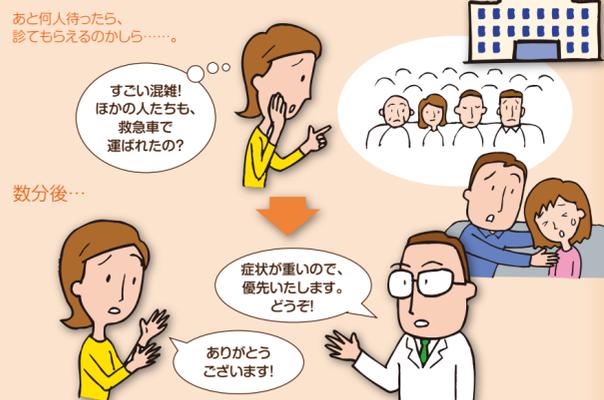
救急医療は「社会資源」です。他の資源の量が限られているのと同じように、救急車、医療機関、医師や看護師などの数も、決して無限ではありません。医療が「限られた資源」であることを理解し、助け合う気持ちをもって利用しましょう。



救急外来は大混雑!

救急外来では、診察の順番が入れ替わることがあります

病院に到着しても、診察の順番を待つ間に症状がどんどん悪化したら……。このような状況を防ぐために、東京都内の救急医療機関では、救急患者の緊急度や重症度に応じて救急医療の要否や診察の順番を決める「救急外来トリアージ」を導入しています。この仕組みは、一種の「助け合い」です。重症の方への思いやりと理解が必要になります。例えば、あなたの大切な人やあなた自身が急に重症になったとき、ほかの患者の方が支えてくれることになるのです。



診察は済んだけど、入院が…

応急処置後、他の病院に転院することもあります

「入院ベッドが満床」などの理由から受入先の病院が見つからず、救急車が長時間現場から出発できないことがあります。これを改善するために、東京都では救急医療機関へ一時的に搬送する「一時受入」を推進しています。応急処置を受けた後、必要に応じて適正な治療や入院加療が可能な他の病院に搬送することもあります。

